

## 写真で見る湘南の野鳥展

春季特別展開催中  
平成4年4月28日  
～5月30日

### ○レンズのとらえた野鳥の生態

私たちの身近にもいろいろな野鳥が生活しています。平塚市だけでも200種類近くの記録があるのです。翼をもって空を飛び回る野鳥は、長い渡りをする種類も多く、四季おりおりに私たちの回りに姿を見せます。こうした姿を見たり、声を聞いて楽しむことは、自然の中での魅力的な趣味の一つです。

今回の特別展では、写真を通してその素晴らしい野鳥達の世界へご案内します。

### ○写真は市民の協力で

展示される約100点の生態写真は、平塚市やその周辺に住む野鳥の会会員によって撮影されたものです。その方々の協力を得て引き伸ばしをすることができました。

### ○身近な野鳥にも謎がいっぱい

ふだん見慣れた鳥たちの世界にも、いろいろな謎がたくさんあります。

キジバトはもともと林の木に巣を作る種類でしたが、20～30年前から街路樹や庭木にもよく巣が見られるようになり、とうとう建物に巣を作るものも現われました。そうした変化がどうやって起こったのかは誰にもわ

かっていないのです。

またキジバトと同じ野生のハトであるアオバトは、海水を飲むという不思議な習性があり、大磯町の照ヶ崎海岸は1日に何百羽ものアオバトが渡来する場所として有名です。そのアオバトはおそらく丹沢から飛んで来ていると思われますが、なぜそんな遠くまで海水を飲みに来るのかは謎に包まれています。

写真を見ながら、そんな野鳥の謎にも目を向けて下さい。

### ○全国野鳥保護の集いを協賛

バードウィークを中心に秦野市などを会場に全国的な野鳥保護の集いが開かれます。戦後バードウィークが制定されてから、早くも40年、今年の行事はそれを記念して展示会・コンサートなど多彩に行われます。博物館の特別展も、これを協賛するものです。これをきっかけに神奈川県の野鳥保護が進むよう願ってやみません。

写真右：競輪場の建物に巣を作ったキジバト

写真左：海岸に飛んで来たアオバト

(臼井勝之氏撮影)

# 博物館の燻蒸

くんじょう

-資料を害虫から守るために-

## ●燻蒸とは

博物館では毎年6月に全館を休館して燻蒸という作業を実施しています。これは、博物館に収蔵されているいろいろな資料をかびや害虫から守るために行っているもので、ガスによる滅菌・害虫駆除の方法です。ここでは、この燻蒸について紹介しましょう。なお、この期間は博物館館内には立ち入りできませんのでご了承ください。

## ●なぜ燻蒸が必要なのか

殺虫というと、普通液体散布を連想します。しかし、博物館や美術館などでは資料そのものに薬の害を与えずに、資料を害のある生物から守り、永久に保存しなければいけません。このためには薬剤として気体を用いる必要があります。このため博物館では、虫のふ化する6月に、臭化メチルと酸化エチレンというガスを混合した燻蒸剤を用いて資料の殺虫・殺かびを行っています。この薬剤は資料に薬害を与えないこと、拡散性や浸透性がよいこと、引火性がないこと、人畜に対して毒性が低いことから、一般に使われています。外国から輸入される穀物などはみなこの薬剤で燻蒸されています。

## ●害虫の種類

博物館資料は木・紙・皮・土・石等からできており、害虫や害菌におかれ易いものです。害虫にはシロアリ・キクイムシ・カツオブシムシ・アリ・ミツバチ・ゴキブリ・コオ



ガス濃度の測定

ロギ・イエバエなどがあります。害菌としてはかびや細菌・地衣類などのほか、木材腐朽菌や木材変色菌というものもあります。こうした生物により、資料は腐り、分泌物や糞により汚損・変色されていきます。

## ●博物館での燻蒸

こうした有害生物から資料を守るために平塚市博物館では、収蔵室だけではなく、展示室も含めて館全体を燻蒸しています。まず、ガスの気密性を高めるため、粘着テープで窓やドア、排水口や給排気口などを目張りします。そして投薬する管を館内に配置し、ガスを拡散するためにファンを分散させます。殺虫効果を確かめるために虫とかびのサンプルも配置します。この密閉作業に3日間を要します。

その後燻蒸剤を2回に分けて投薬し、3日間、ガスを封入します。この間定期的にガスの濃度を測定し、ガス漏れや濃度が低下しないかどうかを監視します。

燻蒸終了後、ガスを放出し、残留ガスの排気に努めます。ガスは空気より重いため、ファンを使って強制的に排気しますが、なかなか抜けません。この排気に燻蒸終了後4日間かかることがあります。したがって、全部で10日間という期間が休館となっているのは、こうした理由からで、ご理解をいただきたいと思います。



薬剤の投薬作業

# 博物館の新刊行図書

## ガイドブック 12 平塚・石仏めぐり -大野地区編-

「ガイドブック8 平塚・石仏めぐりー旧市内編ー」に続く石仏第2弾の登場です。

掲載地域は、旧八幡村、旧四之宮村、旧真土村、旧中原上宿・中原下宿村、旧南原村です。

石仏を調べる会で調査・編集を行っている「平塚の石仏」の7集と8集を下地にして、主だった石仏を紹介しています。

B6版 92頁 頒布価格 650円

## 平塚市博物館研究報告 自然と文化 第15号

博物館の研究報告「自然と文化」では今回、6編の研究成果を掲載しました。

■相模湾沿岸に漂着した

小笠原・福德岡の場海底火山起源の軽石

■湘南地域における

「身近な生き物調査(1990年度)」

■1991年の太陽黒点

■桜畠遺跡採集資料(1)

■博物館資料と学校教育

■相模川下流域の富士浅間信仰

B5版 110頁 頒布価格 950円

## 平成2年度の活動報告 平塚市博物館年報 第15号

平成2年度(平成2年4月~平成3年3月)の博物館の活動を報告しています。

B5版 52頁 頒布価格 450円



中原2丁目 大松寺境内の4基の地蔵

博物館刊行図書の販売は、1階受付にて行っております。

価格には消費税が含まれています。

### 今月のプラネタリウム

#### 一般投影

## 星空の四季

4月1日~6月7日

#### 幼児投影

## ふたごの星

5月13日~7月10日

# 博物館カレンダー

## 5月の行事予定

1	金	星を見る会（木星と春の星座）
9	土	古文書講読会 土曜観察会 漂着物を拾う会
10	日	相模川の生い立ちを探る会 (三浦)
16	土	シンポジウム「湘南の野鳥」 平塚の空襲と戦災を記録する会
17	日	古代遺跡を探す会
23	土	古文書講読会 土曜観察会 漂着物を拾う会
24	日	相模川を歩く会
28	木	裏打ちの会
30	土	天体観察会（月光天文台）
31	日	

## 6月の行事予定

6	土	漂着物を拾う会
7	日	古代遺跡を探す会
9	火	全館燻蒸のため 休館
14	日	相模川の生い立ちを探る会 (江ノ島)
18	木	
20	土	平塚の空襲と戦災を記録する会 土曜観察会 ナチュラリスト講座 天体観察会
21	日	相模川を歩く会
25	木	裏打ちの会
27	土	古文書講読会 漂着物を拾う会

5/1～6/7 寄贈品コーナー「自然部門」  
 6/19～7/30 寄贈品コーナー「考古部門」  
 4/1～6/7 プラネタリウム 「星空の四季」  
 5/13～7/10 プラネタリウム 幼児投影  
 6/20～7/14 プラネタリウム 「双子の星」  
 4/28～5/30 特別展  
 「写真で見る湘南の野鳥」

### ■シンポジウム「湘南の野鳥」

開催日：5月16日（土）

時間：午後2時～4時

内容：大磯町照ヶ崎でアオバトの調査に取り組んでいるアオバト探検隊など、湘南地域で野鳥の調査を行っているグループの方々に研究の成果を発表して頂く会です。

干潟の鳥、公園の鳥など、いろいろな話題が取りあげられます。気軽にご参加下さい。

会場：講堂

入場：無料（申込不要）

### ■漂着物を拾う会

開催日：5月9日（土） 5月23日（土）

6月6日（土） 6月27日（土）

時間：朝6時集合～7時頃まで

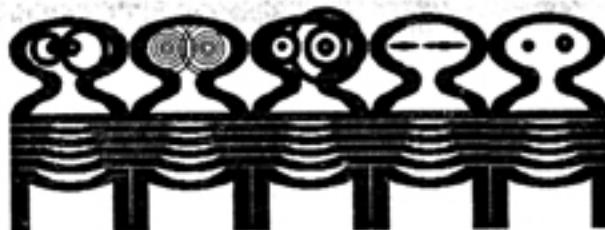
場所：平塚海岸（花水川河口石碑前集合）

### ■寄贈品コーナー

テーマ：自然部門新収集資料展

期間：5月1日（金）～6月7日（日）

内容：地質部門の地下ボーリング資料や生物部門の剥製など新しく収集された資料を紹介します。



全館燻蒸にともなう

### ★休館のお知らせ★

平塚市博物館では毎年全館燻蒸を行なっています。燻蒸作業のため、

6月 9日（火）～  
6月 18日（木）

は 休館 になります。

『あなたと博物館』 17巻2号 遷巻188号 03000 発行 平塚市博物館

〒254 平塚市浅間町12-41

TEL(0463)33-5111 FAX(0463)31-3949